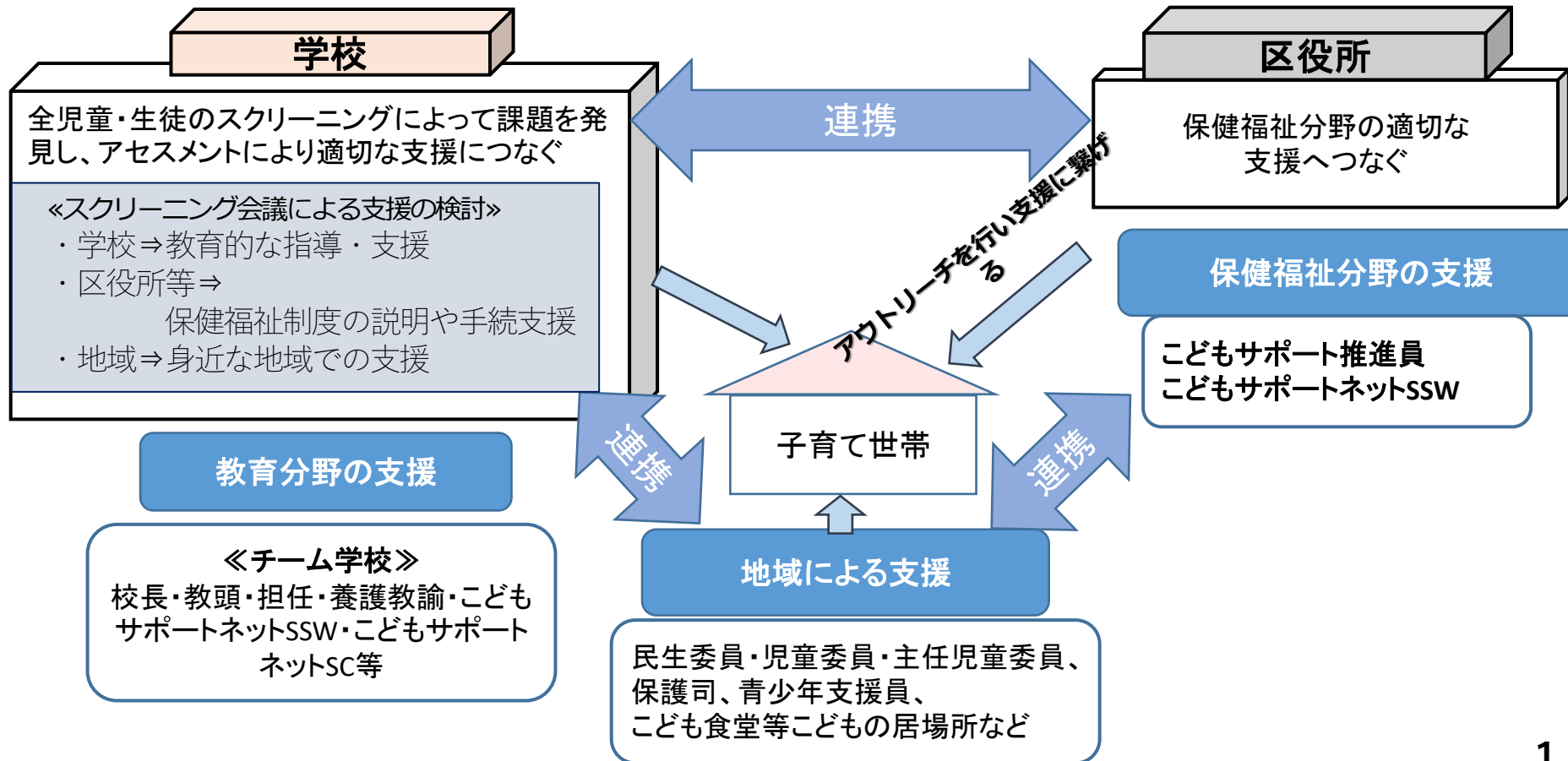


こどもサポートネット

「事業概要」

学校でのスクリーニングにより世帯の経済的困窮等をはじめとした課題を抱える要支援者を発見し、こどもサポート推進員及びこどもサポートネットSSWが配置されている区役所がチーム学校と連携して、教育的支援や保健福祉の支援制度、地域資源の適切な支援につなぎ、要支援者を社会全体で総合的に支える仕組みとして、平成30年度よりモデル実施し、その実績を踏まえ、令和2年度より全区において実施。

概要図



こどもサポートネット

令和4年度 実施状況

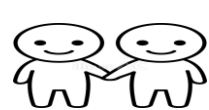


市立小・中学校

164,028人の児童生徒を対象に
スクリーニングの実施

[illegible]

3,356人の課題を抱える 児童生徒を抽出！！



家庭へのアウトリーチ
3,333人 (99.3%)

支援につながった件数
3,181人 (94.8%)

解決・好転に至った件数
948人 (28.2%)

実績

新型コロナウイルス感染症の影響などアウトリーチを拒む世帯もある中、粘り強く支援対象者に対して働きかけ等を行った結果、99.3%に対しアウトリーチができ、94.8%と高い割合で必要な支援先等の利用につながることができた。

解決・好転に至らない主な理由

- ・支援利用に消極的、適当な支援先がない、不登校ケースなどの場合、こどもの気持ちの変化に時間を要する場合がある。
- ・複合的な課題が多く1つの支援につながったからといって、すぐに解決・好転に至らない場合がある。

- アウトリーチを拒む世帯に対しては、各区役所や学校が連携し、支援対象者とのつながりを持つことをめざす。
- 支援を拒否する世帯や不登校支援では、支援の必要性を粘り強く説明するとともに、気持ちに寄り添いながら支援につながることをめざす。
- こサポ担当者に対しての専門家を招いての講義式の研修やグループワークを実施し、専門知識の取得などスキルを習得をめざす。

こどもサポートネット

不登校児童生徒への対応事例

●家族構成

父、母、中学生本児、きょうだい含む5人世帯

●家族状況

- ・母は早朝から夜遅くまで、父は日勤と夜勤の週替わり勤務。本児の朝の送り出しが難しい状況。
- ・本児自身はもともと緘黙気味。

●課題が発見された経緯

- ・小学高学年になってから、昼夜逆転により欠席が増えスクリーニングシートにチェックが入り、本事業の支援対象となった。

●支援の経過

- ・本児のみの在宅が多く、学校が家庭訪問しても本児がでてこないため会えない状況が続き、スクリーニング会議Ⅱのアセスメントにより、こどもサポート推進員が同行し家庭訪問を行った。
- ・その結果、学校以外にこどもサポート推進員と本児及び父母がつながることができ、その後もこどもサポート推進員が面談を繰り返すことにより、本児との関係性を構築することができた。
- ・本児が学校を休んだ時に、学校やこどもサポート推進員の家庭訪問を受け入れることができるようになった。
- ・こどもサポート推進員が付き添うことによって中学校の入学式から学校へ通うことができた。
- ・学校の先生とともにこどもサポート推進員が促すことで、中間テストも教室で受けることができ、現在も休みがちではあるが登校できている。
- ・本児の継続した登校に向けて、こどもサポート推進員がスクールカウンセラー（ＳＣ）との面談を提案した結果、父が面談を受けることとなり、現在も継続的に面談を行っている。

●支援により生じた変化

- ・こどもサポート推進員の家庭訪問により、関係性を構築できたことで本児の気持ちや取り巻く環境が変化し、支援を受けることに前向きになった。
- ・ＳＣ等への適切な支援につなぐことにより、親も相談できるようになり、本児に加えて世帯への支援に広がった。